

平成 26 年度事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム みさよほうす土支田

短期入所生活介護 みさよほうす土支田

1. 特別養護老人ホーム みさよはうす土支田

1 はじめに

みさよはうす土支田は、平成22年4月開設以来、利用者一人ひとりの個性を大切にし、小規模施設ならではの、きめ細やかなサービスをモットーに取り組んで参りました。地域に開かれた、地域の方に愛される特別養護老人ホームとして順調に推移致しております。

このため、平成26年度におきましては、施設の入所率は、利用者のニーズに的確に応え、年間を通じ99.7%となっています。

今年度も職員一丸となり高品質で付加価値の高い施設の運営を目指します。

2 事業実績について

特養は定員30名に対し、年平均利用者実人員は28.9人（前年度比1.8ポイント増）であった。26年度の新規利用者は12名、退所者は12人で、理由は、病気入院による退所が12人であった（表1）。また、平均年齢は、男性90.0歳 女性87.6歳、全体で87.9歳（同0.8ポイント増）であり、要介護度の平均は、男性3.7、女性3.9、全体で3.8（同0.1ポイント増）となっている。利用者の高齢化、重度化の傾向が見て取れる（別表1～3）。

表1 特養退所者の状況

No.	性別	年齢(退所時)	退所月	退所理由
1	男	91歳	平成26年4月	病院入院
2	男	82歳	平成26年6月	病院入院
3	女	89歳	平成26年6月	病院入院
4	男	76歳	平成26年7月	病院入院
5	男	87歳	平成26年8月	病院入院
6	女	90歳	平成26年10月	病院入院
7	男	95歳	平成26年11月	病院入院
8	女	86歳	平成27年1月	病院入院
9	女	96歳	平成27年2月	病院入院
10	女	99歳	平成27年2月	病院入院
11	女	95歳	平成27年3月	病院入院
12	女	98歳	平成27年3月	病院入院

3 サービス内容について

(1) 食事介助

利用者の食事摂取状況に応じて、食事の見守り、食事介助を行い、誤嚥や嚥下状態の低下傾向のある利用者については、適切な食形態の検討を行い、経口摂取の維持に努めた。

また、体調等を考慮し、居室配膳や居室での喫食を実施した。

(2) 入浴介助

利用者の身体状態に合わせ、特浴、チェアー浴、一般浴の3機種の中からより安全な入浴方法を選び、週3回の入浴を実施した。

(3) 排泄介助

おむつ交換は、1日6回の定時交換のほか、随時の個別確認、及びナースコールによる要請により実施した。

(4) 健康管理

嘱託医による週1回の内科往診および月2回の精神科の往診があり、通院治療が必要な場合は、家族の協力等により受診し、利用者1人ひとりが、心身共に健康で充実した日常生活を送れるよう健康管理を行った。

また、歯科医および歯科衛生士による定期的な往診があり、口腔ケア、歯科治療に取り組んだ。

今期も、9月に健康診断を実施。10月から11月にかけて、家族の承諾によりインフルエンザ予防接種を実施。11月は、希望者のみ肺炎球菌ワクチン接種を実施した。生活の場における保湿、室温管理、脱水予防などを徹底した。一方、職員のうち、うがい、手洗い、マスクの着用を早期に励行し予防を徹底した。

(5) 機能訓練

機能訓練指導員を中心に、看護師、介護職、理学療法士（非常勤）および言語聴覚士（非常勤）等が連携し、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施した。

(6) レクリエーション

月1回の誕生会、その他、カラオケ（童謡、懐メロ）、公園への散歩、お化粧、お茶会、ボーリング、風船バレー、棒体操、ぬり絵、折り紙、映画鑑賞など、入浴日を除く毎日、職員が中心となり、実施した。

表2 年間行事

4月	お花見（23名参加） 白子川沿いの桜並木や清水山憩いの森のカタクリの花などを見て春を満喫された。
5月	菖蒲湯 端午の節句（こどもの日）の入浴時、菖蒲の香りでリラックスされた。
7月	七夕祭り 職員が七夕の笹飾りを作り、さらに利用者の願い事を書いた短冊も飾った。
9月	敬老会 職員手作りのカードをプレゼント。感激されて涙する利用者もいた。
10月	ハロウィンパーティ 飾り付けはもちろん、ハロウィン仕様のお面や帽子を利用者と職員が被り、お菓子を食べながら盛り上がった。
12月	ゆず湯 冬至の日において入浴時、ゆずの香りを楽しんでいただいた。 クリスマス会 クリスマス音楽を流しながら、サンタクロースの衣装を着た職員とツーショットを撮ったり、楽しいお話などで盛り上がった。
1月	お正月の獅子舞 職員が自作の獅子頭を被り、獅子舞を披露。一年無病息災を祈って利用者の頭を噛むと、合掌されたりして大変喜ばれた。
2月	節分の豆まき 本物の豆は痛いので、タマゴボーロを代用して豆まきをした。鬼の面を被った職員が投げた豆を避けるのに逃げ回ったりして盛り上がった。
3月	ひな祭り 折り紙で飾り付けをして、雛あられを食べながら職員と談笑した。

表3 ボランティアによるレクリエーション

NO.	内容	日時	出演者等（敬称略）	参加者数
1	江戸かっぽれ	平成26年7月31日 13:30~14:00	華組（2人）	10
2	江戸かっぽれ	平成27年3月3日 13:30~14:00	華組（2人）	20

参加者数は、利用者および、その家族

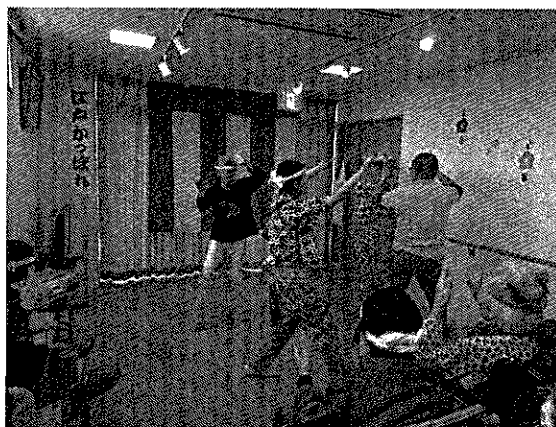


図1 江戸かっぼれ

4 家族等との連絡調整等

(1) 『みさよはうす土支田だより』の発行

創刊準備号 平成26年6月10日

創刊号 No.1 平成27年1月19日

(2) 家族懇談会の開催

平成26年11月30日 計21人参加

(3) その他

面会者数 のべ2,889人(1日平均7.9人)

5 各種委員会等

下表の委員会等を定期的に行き、利用者のケア等について検討した。

表4 委員会活動

委員会名	内 容
①栄養委員会	利用者の栄養ケアに関すること
②感染症対策委員会	施設内外の環境衛生、感染症の予防等に関すること
③褥瘡対策委員会	褥瘡の予防、処置等に関すること
④身体拘束廃止委員会	利用者の身体拘束に関する基準、説明と同意に関すること
⑤事故防止委員会	利用者等にかかる事故の防止に関すること
⑥防災・安全対策委員会	災害防止及び災害時の対応等に関すること
⑦リハビリ委員会	個別機能訓練等の検討等に関すること
⑧レクリエーション委員会	利用者のレクリエーションの計画・実施等に関すること

⑨ボランティア活用推進委員会	ボランティアの活用、登録等に関する事
⑩入所検討委員会	利用者の選定に関する事
⑪職員会議	施設全般の運営・管理等に関する事、情報伝達等
⑫安全衛生委員会	職員の労働環境、健康管理の確保等
⑬研修委員会	全職員の知識・技術の向上等のための研修に関する事

6 職員研修

年間を通じて、練馬介護人材育成・研修センター(練馬区社会福祉事業団)が開催する研修に積極的に参加した。

また、集合研修がしにくいシフト制職場というデメリットを補うため、同一内容を時間差で実施したり、DVDを活用したりする等の工夫を行った。

表5 研修内容

No.	名称	開催日	人数	備考
1	前向きな物事の捉え方ー ポジティブ思考	6/2	2名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
2	医療との連携ー経管栄養ー	6/12	2名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
3	練馬区の低所得対策と年金	6/18	1名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
4	コンプライアンスをやさしく学ぶ	6/20	2名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
5	明日から誰でも実践できる音楽ケア入門	7/7	2名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
6	リスクマネジメントー認知症ケア編ー	7/11	2名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
7	ケアマネジャーが知っておきたい医療知識	7/16	1名	主催:練馬介護人材育成・研修センター
8	認知症ー基礎から実践まで まなぶ塾	7/26, 8/30, 9/27, 10/25, 1/31, 2/28	9名	主催:みどりの杜クリニック
9	安全で安心な介護技術ー移動・移乗の基本ー	9/5	2名	主催:練馬介護人材育成・研修センター

10	医療との連携－褥瘡の理解	10/17	2名	主催：練馬介護人材育成・研修センター
11	利用者とともにつくるレク・タイム	11/18	2名	主催：練馬介護人材育成・研修センター
12	排泄(おむつ)ケア研修	11/26, 11/28(のべ6回)	13名	職場内研修
13	職場のメンタルヘルス	12/12	15名	職場内研修
14	介護保険制度改正による介護事業者への影響	1/22	1名	主催：練馬介護人材育成・研修センター
15	組織研修－リーダークラス研修、一般職研修	1/26, 2/4, 2/9(のべ6回)	19名	法人研修
16	医療的ケア研修	2/15, 3/1, 3/15, 3/29(27年度継続)	2名	法人研修
17	心身の仕組みを活かした介護技術の基本研修	3/30, 3/31(27年度継続)	2名	法人研修
18	事故防止研修	3/2, 3/9(のべ3回)	17名	職場内研修



図2 13の職場のメンタルヘルス研修実施状況

7 ボランティアの受入れ

平成25年度に制定した「ボランティア活用推進要綱」に沿って、ボランティアの利用を図っている。平成26年度は、練馬区の施設介護サポーター養成研修を修了した方1名を、食事介助のボランティアとして、週1回来て頂いた。

8 実習生の受け入れ

平成25年度に制定した「介護実習生等受け入れ要綱」に沿って、実習生の受け入れを図っている。平成26年度は、小学校および中学校教諭の教員免許状の取得を希望する学生を、介護等体験の実習生として、12名を受け入れた。

9 インターンシップの受け入れ

介護業界、介護機器および福祉政策などに関心があり、自分なりの目的を持って主体的にプログラムに参加し、成長したいと考えている大学等の学生を受け入れている。平成26年度は、2名の大学生を受け入れた。

10 介護ロボットの導入

以下の介護ロボットを導入し、利用者の事故防止と介護労働の負担軽減に役立てた。

- ① スマートスーツ（介護者の身体負担を軽減させる軽労化スーツ）
平成26年5月 7着 導入
- ② リショナーネ（車いすが融合した電動ケアベッド）
平成26年9月 1床 導入
- ③ マッスルスーツ（介護者の腰を補助する装着型装置）
平成26年10月 1着 導入
- ④ ラクミーマ（赤外線による見守りシステム）
平成27年1月 5台 導入

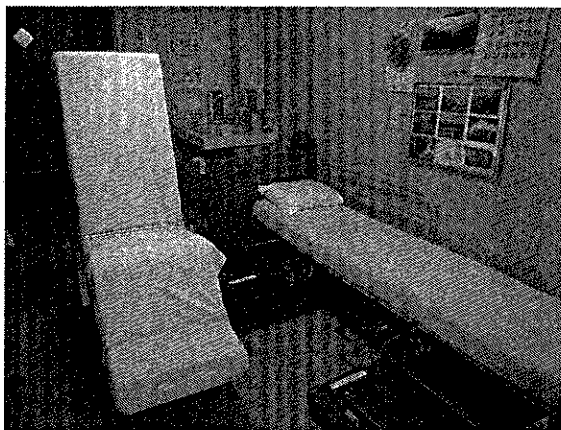


図3 ②リシヨーンネ



図4 ③マッスルスーツ

Ⅱ. 短期入所生活介護 みさよはうす土支田

1 はじめに

ショートステイは定員 2 名であるが、特養利用者の入院等による空室利用により、年間利用者数は、男性 91 名、女性 107 名、合計 198 名で、前年度比 150 名減であった（別表 5）。これは、特養利用者の居室利用率が高くなったことによるものである（年平均特養入所者 27.1 人⇒28.9 人）。

ショートステイ利用者の平均年齢は、男性 83.2 歳、女性 89.4 歳、全体 86.8 歳だった（別表 4）。また、要介護度の平均は、男性 3.0、女性 3.5、全体 3.3 だった（別表 6）。ショートステイの稼働率については、長期入所者が、疾病により入院した場合、その部屋を利用希望者に活用していただくよう居宅介護支援事業所へ積極的に情報提供し、コミュニケーションを図り、空室を作らないよう有効活用を心掛けている。

特養・ショート合計の年間利用率は、99.7%だった（別表 10～11）。

2 サービスの実施状況

(1) 事前面接調査と情報の共有

短期入所でも、その期間は快適な施設生活を送って頂くようにするため、医療処置の有無、日常生活の介護の方法、ご家族の要望等を事前面接で聞き取り、職員間の情報共有を図り、対応した。

(2) 施設までの送迎

ドア・ツウ・ドアの送迎サービスを行った。

(3) その他

入浴は、（月）（水）（金）の週 3 回実施。その他施設内のサービスは特養の利用者と同様とした。

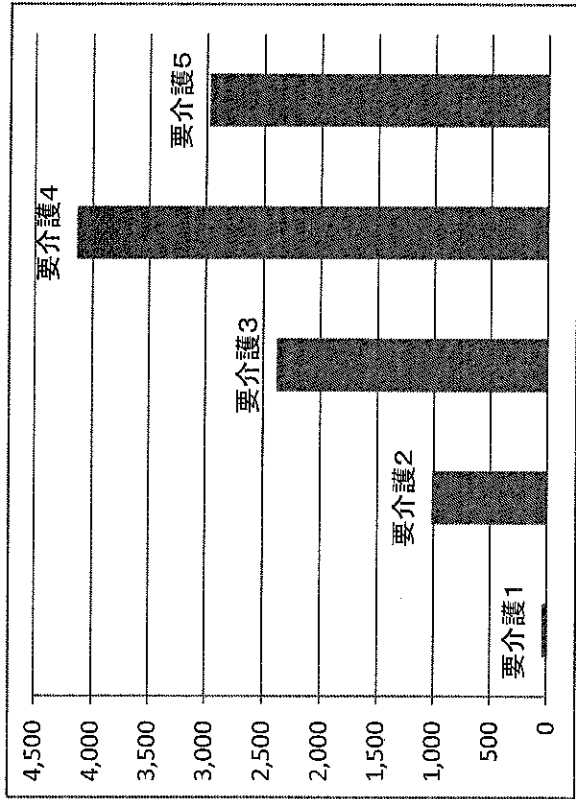
(別表1)

< 年度末平均年齢 >

特養	性別		人数		平均年齢		年齢分布	
	男	女	4名	25名	90.0	87.6	85～95	78～99
	(全体)		29名		87.9		78～99	

(別表2)

< 月別利用者の状況 >



(別表3)

特養 (定員 30名)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	要介護1	0	15	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	120	124	120	124	93	90	87	60	62	62	28	46	1,016
要介護3	194	217	210	186	217	183	208	184	217	209	170	188	2,383
要介護4	347	310	300	326	341	360	371	360	372	372	305	375	4,139
要介護5	210	248	219	248	244	210	248	254	279	279	283	253	2,975
計	871	914	871	884	895	843	914	858	930	922	786	862	10,550
要介護平均	3.74	3.71	3.66	3.79	3.82	3.82	3.85	3.94	3.93	3.94	4.07	3.97	3.85
実人員	29	30	28	29	28	29	28	30	30	29	29	29	348
述べ定員数	900	930	900	930	930	900	930	900	930	930	840	930	10,950
1日平均利用者数(人)	29.0	29.5	29.0	28.5	28.9	28.1	29.5	28.6	30.0	29.7	28.1	27.8	28.9
稼働率	96.78%	98.28%	96.78%	95.05%	96.24%	93.67%	98.28%	95.33%	100.00%	99.14%	93.57%	92.69%	96.35%

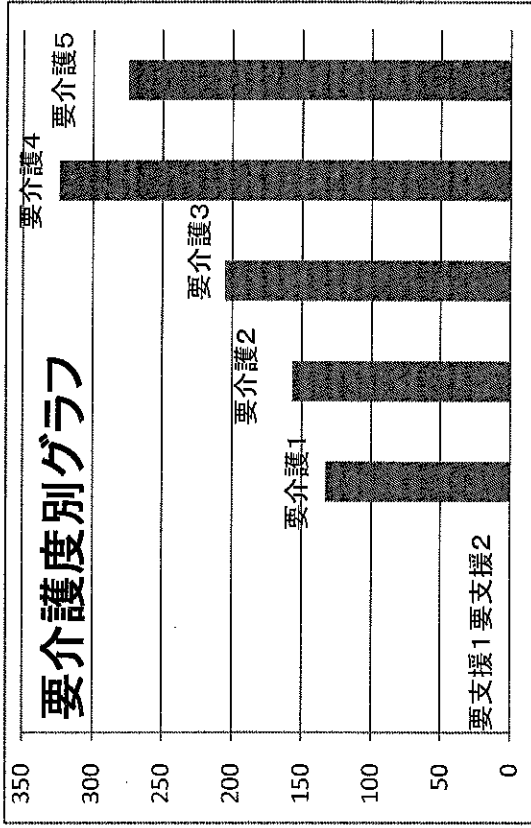
(注) 本表では、在籍日数により算出しています。

(別表4)

< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	10名	83.2	72～95
女	8名	89.4	81～94
(全体)	18名	86.8	72～95

(別表6)



(別表5)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1													0
要支援2													0
要介護1				7	6	9	13	8	22	16	8	23	133
要介護2	13	8	4	4	18	14	29	3	6	6	19	23	157
要介護3	26	17	7	7	16	6	9	30	24	16	9	14	205
要介護4	49	30	23	23	15	30	31	24	22	23	23	29	324
要介護5	19	14	23	45	46	14	23	14	19	8	25	17	275
計	107	69	64	100	105	79	105	93	69	84	106	113	1,094
要介護平均	3.69	3.72	3.80	3.75	3.86	3.21	3.42	3.11	3.01	3.45	2.94	3.12	3.41
実人員	16	13	12	19	16	16	10	18	15	16	24	18	198
述べ定員数	60	62	60	62	62	62	62	60	62	62	56	62	730
1日平均利用者数(A)	3.6	2.2	2.1	3.2	3.4	3.5	2.5	3.1	2.2	2.7	3.8	3.6	3.0
稼働率	178.33%	111.29%	106.67%	161.29%	169.35%	175.00%	127.42%	155.00%	111.29%	135.48%	189.29%	182.26%	149.86%

(注) 本表では、退所日は日数には含んでいません。

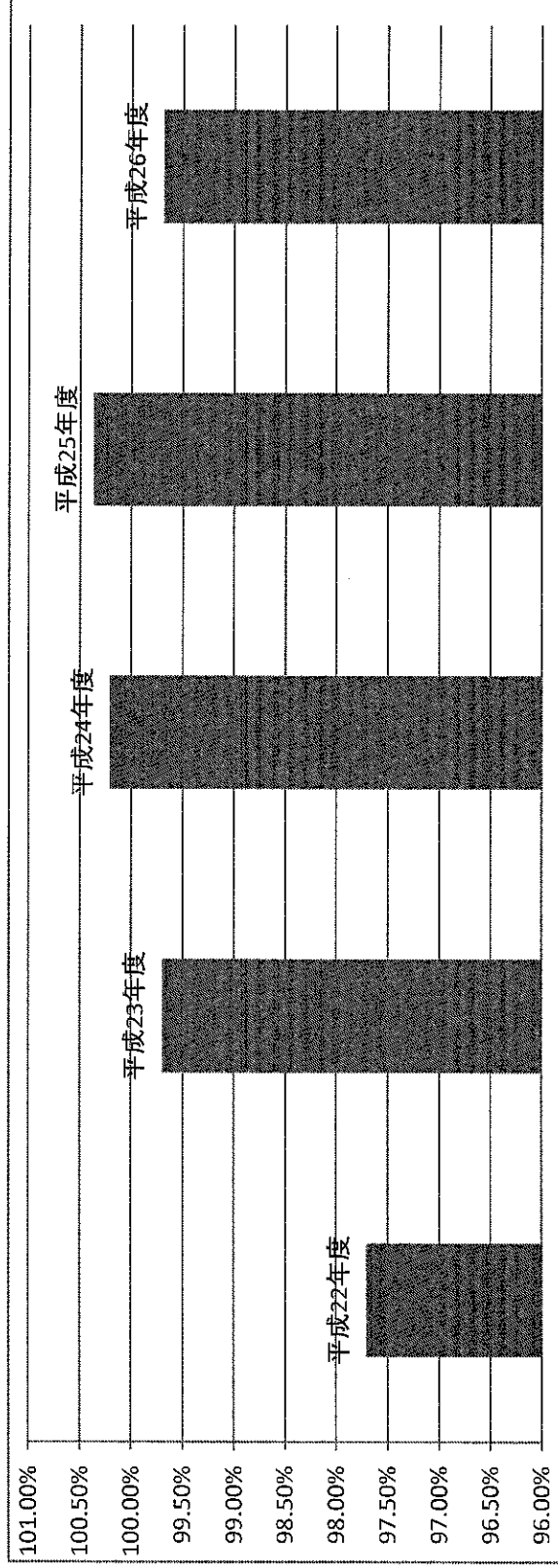
(別表10) <月別稼働率>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養	871	914	871	884	895	843	914	858	930	922	786	862	10,550
ショートステイ	107	69	64	100	105	105	79	93	69	84	106	113	1,094
計	978	983	935	984	1,000	948	993	951	999	1,006	892	975	11,644
延べ定員数	960	992	960	992	992	960	992	960	992	992	896	992	11,680
稼働率	101.88%	99.09%	97.40%	99.19%	100.81%	98.75%	100.10%	99.06%	100.71%	101.41%	99.55%	98.29%	99.69%

特養：ショート（定員32名）

(注)本表では、実利用日数で算出しています。

(別表11)



年度	稼働率
22年度	97.71%
23年度	99.70%
24年度	100.21%
25年度	100.37%
26年度	99.69%